

生涯学習だより

◎ 教育課 生涯学習係 ☎(83)7021



子ども夏フェス



スーパーキッズの小学生も、カプセル自動販売機や金魚すくい、ストラックアウトなどの店番を担当。お客さんに、「いらっしゃいませ～」と大きな声で応対し、フェスを盛り上げました。

8月5日(土)に、恒例の子ども夏フェスを開催しました。

夏の日ざしの下、たくさんの子どもたちが生涯学習センターの青空広場に集まりお祭りを楽しみました。

昨年スーパーキッズを卒業した中学1年生3人も、スタッフとして参加してくれ、アイスや焼き菓子の販売を手伝ってくれました。「毎年参加していたので、今年も手伝いたいと思います。暑い中、お客さんが来てくれて嬉しかった!」と、汗をぬぐいながら、笑顔で話してくれました。

寺子屋まつだ 夏休みの巻



今年の夏の寺子屋は、幼稚園から小学生までを対象に実施しました。英検に向けた英語の学習では、町のALTの先生と会話しながら進め、復習の夏のドリル学習では、中学生に採点してもらいながら、一学期の復習に取り組みしました。学習の後は「Kodomoキッチン」で自分たちで調理した昼食を毎回おいしく食べました。



寺子屋(英語の学習)

松田 文化財探訪

松田の関東大震災 その5

文化財保護委員 桐生 海正

震災当日の様子

先月号で紹介した「読本教材を主とする郷土資料」をもとに、震災当日の寄村(現寄地区)の様子を見てみましょう。

大正一二(1923)年九月一日、前夜から続いた暴風は未明にようやく収まりましたが、午前九時頃まで雨が降り、悪天候が続いていたようです。しかし、他の文献を見ると、この雨のおかげで、山間村落の人びとは、当日山に入るのがなく、被害を最小限に抑えることができたといえます。その後、天候は回復したようです。

午前一二時五八分、早い者では昼食中、遅い者ではその準備中に、「一大音響」とともに空前の大地震が村を襲いました。この時の家屋の被害を表にまとめました。この頃の寄村の全戸数は三三三軒だったので、全体の約30%の住

宅が被害を受けました。その後、余震とは思えない程の激震が二回、三回と続き、人びとは「顔色を失」いました。震災による寄村の死者は七名。一歳の幼児や小学校から帰宅し遊びに出かけていた少年が土砂崩れで生き埋めとなり、亡くなっています。

なお、この時の松田町は、全戸数七二九軒の内、全潰・半潰が六五七軒(全体の約90%)、死者は一二名でした(『大正震災志 上』)。

種別	全潰	半潰	計
住宅	35	63	98
土蔵	12	26	38
物置	48	25	73
その他	46	16	62
計	141	130	271

寄村の家屋の被害
(「読本教材を主とする郷土資料」より作成)

震災は人びとの生活を瞬く間に一変させたのです。